

NJPPP 委託事業
栄養改善ビジネスの国際展開支援事業

「カンボジアにおける栄養強化米を使用した健康推進戦略」

報告書

平成 29 年 8 月 23 日 - 平成 30 年 3 月 15 日
特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構
(ILSI Japan)

1. 背景と目的

栄養改善妊娠適齢期女性の微量栄養素欠乏は、母子の健康に深刻な影響を及ぼし、職場(工場)における欠勤率の増加、生産性の低下等にもつながる重要な栄養課題である。これらの状況を改善するために、ILSI Japan では、カンボジアにおいて主食である米に、不足栄養素を強化し、食事からの微量栄養素摂取を高めるという解決策の職場への導入を検討している。米への栄養素強化には、日本の民間企業である太陽化学株式会社が開発した味、色の変化が少なく吸収性の良い栄養強化剤を用いる計画であるため、太陽化学にとっては、栄養強化剤の販売経路を拡大することにつながる。

ILSI Japan は、既にフィリピン、ベトナムにおいて鉄強化米による貧血対策プロジェクトを現地の研究施設と協力して実施しており、そのノウハウを本プロジェクトに応用することができる。また、カンボジアにおいて、母子栄養関連の活動を進めている NGO である RACHA (Reproductive and Child Health Alliance) と協力して鉄強化魚醤プロジェクトを実施した実績があるため、本プロジェクトも RACHA の協力を得て実施することが可能である。

本現地調査の目的は、カンボジアにおける関係者との意見交換を通じて、本プロジェクトの実施可能性と連携可能性を検討することである。

2. 実施方法

2回の現地調査を通じて、栄養強化米の職場食への導入に関わる実施可能性と連携可能性を検討した。

1) 第1回現地調査：2017年9月

NJPPP の担当者1名及び ILSI Japan の担当者2名が渡航し、工場経営者・現地政府・国際機関・NGO・学術機関等を個別に訪問し、意見交換を行った。

2) 第2回現地調査：2018年2月

NJPPP の担当者1名及び ILSI Japan の担当者2名が渡航し、関係者訪問に加え、セミナーを開催し、職場における栄養改善プログラム及び、栄養強化米を用いた栄養改善事業を紹介した。

3. 結果

1) 第1回現地調査

① 日程：2018年9月3日～2018年9月9日

② 訪問先：

カンボジア政府関係者	農業・農村開発評議会
	保健省 国家栄養事業
	労働・職業訓練省
	計画省 国家栄養強化食品委員会
工場経営者関連	プノンペン経済特区
	味の素カンボジア社
	ロート・メンソレータム社
国際機関	UNICEF
	WFP
	JICA カンボジア
NGO 関連	RACHA
	公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR)
	カンボジア日本人材開発センター (CJCC)
学術機関	国立公衆衛生研究所

③ 訪問結果概要

- ・ **栄養課題**：カンボジアの妊娠適齢期女性における栄養課題として、亜鉛欠乏、葉酸欠乏、ビタミン B1 欠乏が挙げられた。食品の多様性が低く、食事からの栄養摂取が十分でない事が要因として挙げられた。
- ・ **企業と労働衛生**：カンボジアに進出している外資企業の多くは、日系もしくは中国系である。作業中に女性従業員が倒れるケースが報告されている。縫製製造業で働く女性従業員の不適切な食行動が指摘されている（短い昼食時間、菓子類の消費）。
- ・ **国際機関・NGO・学術機関との意見交換**：国際機関・NGO・学術機関との意見交換を通して、連携の可能性が見出された。
- ・ **企業と給食の提供**：日系企業の多くは給食（炊飯米のみ、もしくは副菜も）を提供している。カンボジアの企業・中国系企業は、給食を提供していない所も多い。給食サービスがある事を条件に就職先を探す者もいる。従業員の中には給食サービスよりも現金支給を望む者もいる（仕送りのため）。
- ・ **食事調査**：カンボジアにおいて食品成分表は無い。近隣国の食品成分表の使用も考えられるが、微量栄養素の数値の記載がない、もしくは値に問題がある食品も多いため、適用は懸念される。
- ・ **日系企業2工場訪問（調味料の製造/医薬品化粧品包装）**：工場内の調理施設で

調理した食事を提供。対面式カウンターで受け取る（数種の副菜から選択）。
委託会社もしくは委託した個人が献立を考え、調理を担当。栄養管理はまだ導入されていない。

④ 写真

会議の様子



職場給食の様子



2) 第2回現地調査

- ① 日程：2018年2月3日~2018年2月9日
- ② 訪問先：JETRO、農業・農村開発評議会
- ③ セミナーの開催

平成30年2月7日（水）8:30 -13:30に、プノンペン市内のヒマワリホテルにて、栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)、特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構 (ILSI Japan) の主催、計画省 国家栄養強化食品委員会、カンボジア縫製製造業協会 (Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC))、Reproductive and Child Health Alliance (RACHA)の共催により、「カンボジア 栄養強化米を用いた職場における栄養改善」を開催した。当日は、カンボジア政府、カンボジア企業、日系企業、国連機関及びNGOから約67名の参加を得た。

セミナーは、カンボジア政府関係者のウエルカムスピーチ・挨拶に始まり、NJPPPの紹介が行われた。続いて、海外における職場食の改善事業例として、パナソニックインドネシア、バングラデシュ縫製工場、NJPPPによるインドネシアにおける取り組みが紹介された。カンボジア国内における職場食の改善事例として、シエムリアップを拠点に活動するKoamonohashi Project / SUSUの取り組みが紹介された。カンボジア政府を代表して計画省 国家栄養強化食品委員会担当者が、カンボジアにおける食品への栄養強化に関する取り組みについて紹介した。また、ILSI Japanは、栄養強化米を用いた栄養改善事業の紹介を行った。オープンディスカッションでは、民間企業の自己紹介が行われ、4社の代表が会社概要、本セミナーの感想について述べた。どの企業も栄養強化米について興味を示し、導入に意欲を見せていた。最後に、計画省の代表から、カンボジアにおける栄養強化米の導入による女性従業員の栄養改善プロジェクトを支援して行きたいと前向きなコメントが得られた。

④ 写真

セミナーの様子





4. まとめ

第1回及び第2回の調査を通して、カンボジアの工場で働く女性従業員の栄養状態、食習慣、カンボジア政府の労働衛生環境改善・栄養強化食品に関する取り組み、民間企業における職場食提供の状況等を把握することができた。また、国際機関・NGO・学術機関との意見交換により、連携可能性が見出された。さらに、セミナーにおいて、国内外の職場における栄養改善事例を紹介したことで、カンボジア政府関係者及び民間企業経営者の本プロジェクト導入に関する理解を深めることができた。今後は、セミナーに参加した企業及びGMACから新たに紹介される企業を個別に訪問し、特に、栄養強化米のコスト負担及び栄養教育時間の確保等に関わる工場の福利厚生の仕組み等について協議し、プロジェクトの導入に関わる詳細な打合せを行う計画である。